

スツスツスオモチャブネ

圓周に沿つて少し屈み腰で歩く、手は前にのばし掌を合はせて肘を曲げたりのはしたりして舟が走る様子をしばらく歩く。

ホカケテ

圓周に沿つてこきざみに走る。手は上にのばし掌を合はせて帆の様にする。

## 談話

### 第九週

三匹の熊

この年齢に最も相應しい代表的童話で、いぎりすの佳作。物の大きさの比較が可愛らしく語り運ばれてゐる。

兩手で大中小の大きさをあらはし乍ら話すのは勿論であるが、この話の性質上、繪で説明する方法をこる事もある。この繪本は、丸善から買ったものを使つてゐる。洋書に云つても説明はごく簡單なので、大ていの保姆さんなら、

ハシル

圓周に沿つて走る、手は下におろす。

ミツキツテハシル

ホカケテハシルと同じ。

カゼガアタルトマタハシル

手を上にのばし帆を作つたまゝ、圓周に沿つてずつこ走つて行く。

こんなやさしい英語は何でもない。序ながら、繪本について一言。幼児の繪本も、いゝものが追々出來てゐるけれど、一枚の面の中にゴチャ／＼と説明畫のはいつてゐるのは感じも悪いし、混雜もする。色彩を鮮明にして、素淡な繪本を見せたい。この點、残念ながら外國の物には敵はない。クリスマス前には丸善に幼児向きのいゝものを澤山こり寄せてゐるので、行つて見るに私達の勉強にもなる。

舌切雀

人形芝居でも見たし、今迄に度々聞いて居るこどもでもあらうし、ミ云つても筋の運びが覺束ないものであるに違ひない。こちらから話しをしながら、知つてゐるところは幼児に語らせ、又話してゆくさいふ形にする。

## 第十週

田原藤太

日本昔噺であるが、實在人物の武勇傳であるから、今迄の架空的のものミ違つて、歴史はなしの始めこも心得られて、話してゐても自ら力がある。大蛇をまたぐ所なき、殊に男の子には興味があるらしい。

話の中で、矢を射る所が度々出て来る。

「藤太はかうして矢を射つたんですよ」ミ云つても、子供は一向平氣で聞いては呉れるが、さうも氣がひけて射る、さいふ言葉が使ひにくい。さうかミ云つて、矢を放したでは猶更可笑しい、或る時、

「藤太がね、矢を斯うして」ミ云つて、弓ミ矢を持った形で、みんなの顔を見廻した。しばらく無言のあきで、一人

が、「飛ばしたんでせう」ミ云つて呉れた。それから年少組に話す時にはいつも、矢を飛ばす、ミ云つてゐる。

同じこの話を、年少組の第三保育期に再び繰り返してみた。そしてこの翌日、さの位みんなの頭にはいつて居るものか、一人づゝに聞いて見た。この事は、幼児側の注意力、記憶力を試みるさいふより、むしろ反應を知つて、豫後に備へるでだての方が主であつたのである。

こゝに擧げるのはごくたぎくしい答のもので、勿論さの問ひに對しても十分返事の出來たのが、三十人に十人ばかりはあつた。

○昨日先生は、何かお話して上げたでせうか。誰のおはなしをしたでせう。

遊びに惹かれて、容易に返事の出來ぬもの、待つて、ね、一寸今、待つて、ね、ミ考へるもの、てんで思ひ出さないものあり、猫の話だつたミ、出たらめのあり、秀郷ウラナのサトからおさ、さうの話だつたのよさいふあり。そこで更めて、田原藤太さいふ強い人のお話したでせうミ云へば、淡いながらもいろいろ思ひ出すようであつた。

○藤太が何を退治したでせうね。

むかでをもぐらゐ。その外、この日の朝歌つた霜柱の唱歌と一緒にして、霜柱の目玉、風の目玉等の答あり、目玉は、百足の目玉話した爲の印象らしい。

○御褒美は何でしたつけ。

米俵と絹は大てい覺えてゐる。米俵をお醬油と云つたのもある。釣り鐘は解りにくく、正しく答へたもの二三ハリガネ等と云ふ。

御褒美と云つたので、聞いた話を考へようともせず、すぐに勳章と云ひ、矢を鐵砲にしてしまつたのもある。

釣り鐘をハリガネ、秀郷をささうと云ふやうに、實物を知らない時は、自分の知つて居るものに結びつけて解釋してしまつてゐる事は、この年齢に最も多い。この時期に話す談話材料が、特に筋の簡単な、言葉のむづかしく無いものをもつて來なければならぬ所以である。

表面の生活だけを見てゐるさ、かなり反應があつても、斯うして一人づつに當つて見るさ、さつぱり何の記憶もない子もあり、又思ひがけなく、筋の運びをはつきりつかん

で居て、見直す事がある。

幼稚園のお話であるからして、いつもあはく風のようにごこかに行つてしまふのも、あまり頼りない。と云つて、度々是れを行つては踏み外す惧れがある。三月に一度位は、聞いた話を幼児の口から云はせて見て、纏つた一つの筋を整理するこゝがあつてもいい。但し、手不足ではなかく出来ない、子供がすっかり慣れてから、お天氣がよく、みんなが外で遊んでゐる時、一寸お隣の先生に願つて見て頂いて居て、自分は室で一人づつきいて見るのも一案。

梅雨の話

勿論二三日つゞいて雨の降つてゐる日に。昨日も、一昨日も今日も、こんな雨ばかり降つてゐるでせう、と云つて、事實を知らせる。これだけで時間をさる程、委しくは言はれないから、外の話の前にするさか、お歸りの前、少し早目に支度して、共に雨を見ながら話す位。

## 第十一週

牛若丸

これも歴史的人物の武勇はなし。これが義經の子供の時  
さいふこは始めに云ふ必要なし。二つの名が出てくる  
ミ、二人の異つた人物を思ひ易い。あく迄も牛若丸で通し、  
牛若時代の勇しい活躍を話す。最後にこの人が大きくなつ  
てから義經さいふ大將になつたを軽く云つておく位。

## 第十二週

皇太后様の御事

観  
察

## 第九週

金魚

金魚の出盛りになつた。夏の景物として第一のものであ  
り、全體子供のものである金魚は幼稚園に是非飼つて置き  
度い第一のものであらう。

金魚の家系圖をこゝで詳しく言ふ必要は全然ないが私共  
はごく常識として知つてゐてもよい。鮒から人爲淘汰によ

六月二十五日は、御誕辰の日である、前日に話す。

天皇陛下のお母様であらせられる事、明日は、御誕生日  
でお祝ひの式がある事等。當幼稚園では、特に行啓があつ  
たので、よく話しておく。委しい事は年長組で。

七匹の仔山羊

少し長いけれど、今迄に繪本などで讀んだり、きいたり  
してゐるので、もう話してもいゝ。

つて作られたものである事は周知の事である。

年長組もなれば金魚屋を見に行くに面白い、これは言  
ふ迄もなく社會觀察としての意味が加はる事になる。そ  
すれば金魚の種類も澤山見る事が出来る。

飼ふ容器はやはりガラス鉢であらう。大きさは適宜さい  
ふより仕方がないが形は四角が無難であり、明瞭に見るに  
都合がいゝ、而し丸い鉢に飼つて大きく見えたり形が變つ